

あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つかるであろう。これがあなたがたへのしるしである。

イエスのカリタス友の会の皆様、この冊子をご覧になってくださっている皆様、主のご降誕と新年のお喜びを申し上げます。また、イエスのカリタス友の会と様々な形でつながってくださる皆様に心からの感謝を申し上げ、このような美しい善意の心を人に与えてくださった神に感謝と賛美を捧げ致します。

振込用紙、使用済み切手、未使用の切手、バザーのための物品など、毎日のように届く皆様の善意のお心は、少しずつ友の会を成長させています。お一人おひとりがカリタス友の会とつながって、絆の輪を広げているのです。この友の会の輪には、スモールクワイアもつながっています。それは、修道会のホームページにもあるように、友の会へのご寄付のお礼として希望の方に CD を差し上げているからです。もちろん、CD だけではなく、招かれるチャンスが増えているコンサートなど、そこでの新しい出会いを通して、さらに輪は広がっています。一人ひとり小さくても、皆で協力すれば、大きな支援になることを、この友の会を通して体験できることは、大きな喜びです。

ところで、先日スモールクワイアの練習をしている時、ふと、私がスモールクワイアの担当をさせて頂いてから何年になるのかなーと思い数えてみました。途中数年離れたのですが……なんと 25 年を数えました。最初のスモールクワイアの練習の時、緊張のあまり、歌と指揮が合わず、思わず皆で笑ってしまったことや、先輩のシスター方が心配して、「応援するから頑張っ！」とメンバーとなって盛り立て、励まして頂いたことなど本当になつかしく、ありがたく思い出します。こんなに長い間関わらせて頂いたことに感謝して、スモールクワイアを通してイエスのカリタス友の会の輪がさらに広がるように努力して参りたいと思います。

2015年12月から始まった“いつくみの特別聖年”は、2016年11月20日で閉幕しましたが、「終了しても神のいつくみに終わりは無い」とは、何度も耳に致します。“神のいつくみ”を思う時、ルカ福音書のイエスの姿が思い起こされます。それは、イエスの受難の場面です。ペトロがユダヤ人たちに、「イエスの弟子ではないか」と問われ、「違う」と否定した時、時に鶏が泣きます。その時、イエスは振り向いてペトロを見つめられました。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出し、「外に出て、激しく泣いた」（ルカ22:62.63）と聖書は記します。これについてアントニー・デ・メロ神父著「小鳥の歌」では、次のように記されています。

わたしは〈主〉とかなりよい関係にありました。わたしは〈主〉にさまざまなことをお願いし、〈主〉と会話し、〈主〉をたえ、〈主〉に感謝したものでした。でもいつもわたしは、〈主〉が、〈主〉の目を見なさいとおっしゃっているように感じて不安でした…わたしは〈主〉の目を見ようとしませんでした。わたしは 話しましたが、〈主〉がわたしを見つめておられると感じたとき、目をそらしました。わたしはいつも目をそらしました。そして、なぜかわかっていました。わたしは怖かったです。懺悔していない罪のどがめをそこに見いだすように思ったのです。そこに、ひとつの要求を見いだすだろうと思ったのです。〈主〉がわたしから何かを望んでおいでと思ったのでした。ある日、わたしは勇気をふるって、ついに見たのでした！なんのどがめもありませんでした。なんの要求もありませんでした。目はただこう言っていました。「わたしはあなたを愛する。」わたしは目のなかを長い間のぞいていました。すみずみまで見ました。そこには次のメッセージがあるだけでした。「あなたを愛する！」と。わたしは外に出て、ペトロのように泣きました。（イエスの目 P179）

この祈りを黙想すると、一人ひとりに注いでくださるイエスのまなざしのとてつもない大きさ、人の感覚では理解できない程の深さに圧倒されます。しかし、実際、イエスのまなざしを見つめようとしていない自分にも気づかされます。イエスのまなざしに気づき、イエスのようなまなざしを人に注ぐことができたならどれほど素晴らしいことでしょう。「イエスとそのいつくみのみ顔にまなざしを向けると、わたしたちは神の愛をつかむことができます」と教皇フランシスコも言います。自分自身がイエスに目を向ける努力をしなければならぬと思います。

そしてそれは、今がちょうどその時と言えます。イエスの誕生を伝える天使が、「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つかるであろう。これがあなたがたへのしるしである」と世界中に告げられた大きな喜びの知らせは、貧しい洞窟の飼葉桶に寝ている弱い乳飲み子の姿に、神の子としての不思議なしるしを見つかることから始まります。自分自身や周りの人、小さな出来事、ささやかな日常、困難な日々に、苦しみ、悩みの中にも、神のしるし・イエスの「あなたを愛する！」というまなざしを見ることができると。皆様の上に神の恵みと祝福をお祈りいたします。

イエスのカリタス友の会 コーディネーター  
シスター 峯 妙子





## ペルーより感謝のお便り

### アントニオカヴォリ学園の多目的室トタン屋根交換資金の支援

ペルー、リマにある、アントニオカヴォリ学園は幼稚園、小学校からなる、120名の小さな学校ですが、地域に親しまれ、カリタス会の精神を広める宣教を行っている学校です。約20年前に始まった学校の壁や、屋根の修繕が必要となってきています。特に、雨の降らないリマの気候に安心して、放っていた多目的室屋根から、最近になって頻繁な雨が漏れるようになり、トタン交換の必要に迫られています。イエスのカリタス友の会様、校舎のトタン屋根交換のための資金をご支援くださいますようお願い申し上げます。

### 申請金額 5,000ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請はすぐに受け入れられ、ペルーへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

#### カリタス友の会様

日本では、秋も深まり次第に冬支度が想像される11月ですが、こちら南半球では、夏の始まりが日々の気温の変化で感じられる季節になりました。カリタス友の会の皆様には、バザーや、展示会などでお忙しいに日々を送っておられるのではないかと推察致します。ペルーでは、政権が新しい大統領に代わっても、真新しい刷新もなく、ニュースに流れるのは、不正、殺人、強盗、家庭不和などの心痛むニュースです。

そのような中で、私たちの心を和ませ、力を与えてくれる出来事は、子供たちの汚れを知らない悪戯や、手をたたいて喜び合う休み時間のひと時です。また、ペルーでは10月、11月は奇跡のイエス様に捧げられた特別な月です。信仰深い人たちは紫の衣を着て、四旬節のように祈りと犠牲を行ないます。奇跡のイエス様の教会には、たくさんの熱心な人たちがゆるしの秘跡のために行列をなし、1時間ごとに捧げられるミサには座る席も、立つ場所もないほど人々が集まって祈ります。子供たちの純粋な心と、熱心なカトリック信者たちの信仰に、慰められ、励まされる日々です。

このたびはアントニオカヴォリ学園の講堂屋根修理の為に多額の寄付を頂き、まことにありがとうございました。今まで雨の降らなかったリマの町では、屋根に注意を注ぐことなどなかったのですが、最近は気候の温暖化で、リマの町も時々、傘がいるような雨が降るようになりました。講堂の屋根も雨が漏るようになり、古くなっていた事に気づきました。子供たちは狭い小さな庭と講堂で、いろいろな行事を行なっていますが、雨で度々、行事を中止したり、雨で転んだりして、思いがけない怪我をすることもあり、心配でした。今回の皆様の寛大なご支援で、屋根のトタン交換ができることに、心から感謝申し上げます。

ペルーの学年度終了は12月ですので、1、2月の夏休みを利用して、工事を行うことになりました。最後になりましたが、皆様の上に神様の豊かな祝福がありますよう、子供たち、教職員と共に祈りすることを、感謝とさせていただきます。



2016年11月15日  
アントニオカヴォリ学園  
校長 シスターマリアミカエラ山田



# ボリビアより感謝のお便り



## カリタス学園 60 台扇風機購入・三か所の屋根修理と雨樋交換

イエスのカリタス友の会の皆様

「わたしたちの後に続く人々、また今成長しつつある子供たちのために、わたしたちは一体どのような世界を残していきたいのでしょうか？」教皇様は、回勅「ラウダート・シ」の中で、地球家族に呼びかけ、神の創造の業である自然・環境と人間が、直面している課題を取り上げ、提案しています。気候の変動も環境問題の一つですが、世界各地で、年々、予測できない気候になり、皆様も、環境問題や現象に心を痛めていることでしょう。ボリビアでも、この夏は、猛暑と涼しさが交互にきて、健康を害する人も少なくありません。

今、休憩時間になり、校庭から、生徒たちのにぎやかな声が聞こえてきます。カリタス学園では、11 月に入り、終業式と卒業式を控え、発表会や展示会などの行事、学期末テストと成績発表など、生徒も教職員も一年の最後のまとめの時期を迎え、慌ただしい日々を過ごしています。そして、12 月から 翌年 2 月の新学期まで、長く楽しい夏休みに入ります。

2016 年、慈しみの特別聖年に、公立校は、記念すべき創立 25 周年、私立校は、19 周年を祝い、分かち合いながら、地域に愛される学校、カトリック学校、イエスのカリタス修道女会の事業として、カリタス学園のアイデンティティーと誇りを確かなものとした年でもあり、教育の重要性と未来への希望と多くの課題を感じた年でもありました。そして、何より、神様から頂いた恵みと祝福に、多くの方々からの支えと連帯に、感謝と感動で胸がいっぱいになった年でもありました。

今年度は、必要な補修工事や修繕のうち、イエスのカリタス友の会様には、幼稚園の男女児のトイレの改築工事費用から始まり、校舎屋根修繕と一部雨樋の交換、60 台の扇風機購入と再設置の費用を、ご支援いただき、無事に、補修工事を終わることができましたこと、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

神様の祝福が皆様の上に豊かに注がれ、それぞれ置かれた地において、多くの実りを結び、味わうことができますように、お祈り申し上げます。

2016 年 11 月 20 日、ボリビア国にて

王たるキリストの祝日に

イエスのカリタス修道女会 リマの聖女ローザ準管区

カリタス学園修道院 シスターユリアナ川下



園舎屋根一部修理と雨樋交換



高校校舎屋根一部修理



扇風機交換



## フィリピンより感謝のお便り

カリタス友の会の皆さま

お元気で幼子イエスの誕生と新しい希望の年をお祝いしていらっしゃると思います。

2016年度にフィリピンの文部省の決定にあわせて、11年生という学年が増設され、どうか手探りの中で少しずつ体制を整えてきております。皆さまの温かく、寛大なご支援によって、生徒達のための十分な机とイスが遅れることなく設置されました。教育内容や内部の組織的な点でも試行錯誤しながらという状況で、この上さらに施設設備の問題が重なっていたなら、どんなに大変なことになっていたでしょうかと思います。

フィリピンの私学は国からの援助は全くなく、在校生の授業料のみで運営していかなければな

りません。毎年入学手続きの時期になると、生徒数がどのくらいになるかハラハラ、ドキドキしている私達です。フィリピン国内のどの学校も、制度の変更に伴って2学年の増設をするために、大変な年度を過ごしていますが、本校生徒達は、幸いに新年度を迎えてすぐ、真新しい机とイスで、勉強やさまざまな活動に励むことができます。教員、生徒、修道者一同心からお礼申し上げます。皆さまの惜しみないご支援に神さまが豊かに報いてくださるようお祈りいたします。そして私たちが置かれた場所で、精一杯にそれぞれの花を咲かせていくことと、私たちにできる奉仕を通して Pay Forward<sup>1</sup>していくことによって、感謝を表していきたいと思います。これからも続けて、どうぞよろしくお願い致します。

フィリピンの明るく熱心なクリスマスの雰囲気、感謝の祈りと共に皆さまにお送りします！

Don Bosco School 生徒・教職員一同  
サンタローザ修道院 共同体一同



<sup>1</sup> Pay Forward とは恩送りと言われ、受けた親切を別の人へつないでいくこと

# クリスマスメッセージ

## 南スーダンより

南スーダンを支援してくださっている皆様へ  
クリスマスと新年のお喜びを申し上げます。

こちら南スーダンは、2016年7月、5回目の独立記念日に、前政府の分裂が起こり、今も不安定な情勢が続いています。私達も7月末から8月末まで、ウガンダに一時避難していました。2013年のクーデターの時は避難しませんでした。今回は私達の教会がある村で、レイプ事件が発生しはじめましたので、主任神父の強い勧めで国外退避しました。ウガンダ国境の最大避難キャンプ近くの地元の修道会のシスターの所でお世話になりました。この場所に辿り着くために、数ヶ所、全く未知のウガンダの国を転々としたので、国外避難する大変さを、体験しました。それでも私達は修道会を探せば、何とかあったのですが、南スーダンの避難民は、行くあてもなく、さ迷い、やっと難民キャンプにたどり着き、力尽きて亡くなる人も多いと聞きます。実際、難民キャンプを何度か訪問しその現状を目の当たりにしました。



国内難民のキャンプ

ところで、現在も政府側と反政府側には、戦いをはじめようと不穏な動きがあります。2013年のクーデターはクリスマスのホリデイを狙って起きたので、今回もクリスマス前に大きな戦いが始まるのではないかと、皆、警戒しています。全ての学校は11月末または12月初めに終了しました。親たちは子供を安全な場所に移動させようとしていますが、南スーダンの至るところで、政府軍、反政府軍が拠点作りのために、村人が追い出されています。南スーダンとウガンダの国境にある難民キャンプには、毎日南スーダンからの避難民が押し寄せています。教会は彼らのために司牧をはじめています。私達の一つの支部は、まだウガンダで、この難民キャンプの近くのカリタスの家を借りて司牧に当たっています。

私達のグンボの教会の敷地内には 2013年と今回の戦いで逃れて来た国内難民の2つのグループがいて、今4000人ほどです。グンボ村には親戚を頼って一緒に住んでいる人を合わせると、もっと多くの難民がいます。今、最大の問題は食糧の不足です。教会の敷地内の難民は登録している国連から食糧配布を受けることはできますが、十分ではありません。一人当たりの分量があり、一ヶ月に一度配布される食糧の分量は1日に一度だけ食事ができる分量です。それでも、彼らは無料配布を受けることが出来ます。問題は村人です。彼らは親戚が増えて食糧調達が困難にも関わらず、食糧配布を受けることが出来ません。今年になって、急激に経済が落ち込み、異常なほど物価高になっています。ただでさえ、現金収入の少ない国民は、食糧不足で亡くなり、家族を養うことのできない父親たちは自殺をしています。政府は公務にあたる兵士や警察、学校の先生に何か月も給料を支払うことが出ず、泥棒が蔓延しています。今は夜だけでなく、日中でも堂々と盗んで行きます。先日、私が町で買い物を終えて村の道に入ったとたん、数人の女性たちが大声で叫び、走り出しました。車を止め、どうしたのかと聞くと、泥棒が家のものを盗み、逃げた。それが教会の方向だと言うので、その女性たちを車に乗せ、追いかけてきました。しかし、泥棒は教会の方向へ真っ直ぐでなく、茂みに入って行きました。車では行けないので、そこで女性たちを下ろし彼女達は追いかけてきましたが捕まえることは出来ませんでした。今は、泥棒イコール兵士なので、銃を持っているため捕まえることは不可能です。この日の泥棒は兵士ではなかったのに、彼女たちは追いかけてきましたが、あとは泣き寝入りするしかない状態です。抵抗するとすぐに撃たれるので、皆何も出来ないのです。とにかく、この状態がいつまで続くのか先が見えないことに、国民は疲れ果てています。

国連は色々対策を重ねていますが、大統領初め、軍は彼らを嫌い、この国がよくなるには国連のせいだと、

彼らを敵対視し、国民にもそれを煽り始めています。国民の不安は大きくなるばかりで、10月には健康状態が良くない大統領が死んだとの噂が一時流れ、国民がパニックになる事件が起きたこともありました。ラジオで噂を信じないよう放送されましたが、混乱は収まらず、大統領は街をパレードして、「私は死んでない」と自ら姿を見せ、混乱は落ち着きました。とにかく不安定です。

いつも皆さまに寛大な支援をしていただいておりますが、今回も支援をお願いしたいのです。12月から乾季が始まります。7月からの内戦は雨季でしたから、食糧不足でも、空いた場所を耕し、自然の草を食べる事が出来ました。しかしこれから10か月は砂漠状態になり、自然からの食べ物もなくなってしまいます。どうか、食糧支援のために寄付をお願いいたします。寄付はイエスのカリタス修道女会の友の会に南スーダン支援と書き、入金をお願いいたします。依頼ばかりで、何の恩返しも出来ませんが、南スーダンの皆さんと共に感謝の祈りを捧げさせていただきます。幼子イエスさまの愛と平和のうちに。

イエスのカリタス修道女会 南スーダン宣教女 シスターマリア・ボスコ下崎 優子



真ん中に広げているのは豆です。小さなバケツに1杯づつ。小人数をグループにして配ります。横の白い袋はトウモロコシの粉です10キロ入り、この食糧はいつ配布できるかわかりません。人びとは毎日少しずつこれを食べます。



私たち教会では、国連から食糧の配分を受けられない村の人たちに食糧を配布しています。しかし人数が多いため体の不自由なお年よりからカードを配り、配布しています。そうしなければ、毎回多くの人が押し寄せて来ます。

カードのない人は次回に。しかし、人びとは理解しません。この日、配布を受けられなかった若い女性たちは、私たちに石をなげはじめました。私達はこの状態にも負けず、神父さまと教会役員と共にゲートを開き、食べ物もうないことを見せました。罵倒する人びとに、「あなた方が文句を言うのは、教会じゃないでしょう。大統領と政府に戦いを止めるように言うのが、国民の義務でしょう。どれだけの世界中の教会の人が南スーダンのために、支援してると思っているの。あなた方が秩序を守らないなら、私たちはあなた方を助けません。」と言いました。人びとは、少しずつ帰って行きました。食糧配布のときは、命がけになります。



## フィリピンより

常夏の国、情熱にあふれ、自然に神様に向かう心が育まれる、不思議な国、フィリピンから、

**BLESSED CHRISTMAS AND A JOY-FILLED NEW YEAR TO ALL!**

2016年も皆様からの温かいご支援をいただいたことに、Caritas Don Bosco School とイエスのカリタス会  
サンタローザ共同体は、心からの感謝を祈りにしてお捧げしました。

微力な貧しい私達のため、これからもどうぞよろしくお願い致します。フィリピンの未来を担う生徒達が皆様に支えられ、しっかりした価値観をもって喜んで奉仕していくことができますように…。"Serve the Lord with Holy Joy!" (聖なる喜びをもって主に仕えよう!)と、祈りの後に力強く射祷を唱えている私達です。皆様のご健康と新しい年にも、神様の豊かな祝福をお祈りしています。





# ブラジルより

クリスマスと新年のお喜びを申し上げます。



サン・マテウスカリタス学園は 1999 年に 7 名の園児で始まり、2016 年に幼稚園から高校まで 500 名になりました。幼稚園のモットー「太陽のように明るい子、お花のようにきれいな心、いつも笑顔でご挨拶」が身につき高校生に至るまで誰にでも挨拶をすることで学校を訪れる人たちからの良い評価をいただいています。



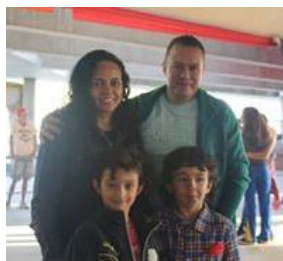
サン・マテウスといえばサン・パウロ市では治安が特別に悪い地域であるということでも有名ですが、カリタス学園の生徒たちはサン・パウロ市で行われる他の有名な私立校が参加する大会で優勝しています。その一つが 2016 年のオリンピックに聖火を持って走る人たちの一人にカリタス学園の生徒が選ばれました。これは、「恐れずに参加すればできる」という勇気につながりました。また教育内容の充実も常に努力しています。全人的教育を目指し、芸術分野にも

力を入れています。マーチングバンドへの参加は全く無料で、外部の青少年も参加しています。教育には家族を巻き込むことを大切にしています。スポーツにも頑張っています。ブラジルでは、復活祭に卵の形をしたチョコレートを食べる習慣があります。その時期には校内で、チョコレートキャンペーンをして貧しい子供たちと分かち合います。宗教教育にも力を入れています。とてもうれしいことは子供たちの中に「大きくなったらシスターたちのようになりたい」とってくれる子供たちがいることです。



日曜日に行うオラトリオには、近くの貧しい地域（スラム街）から 30~40 人の子供たちが参加し、校庭で遊び、その後昼食またはおやつをして帰ります。15 歳の少年が、「シスターになるために長年勉強するんでしょう。シスターたちはいつも笑っているね。特に毎日曜日自分たちと遊んでくれるシスターはいつも笑っている。そんなシスターが好きだ」と言ってくれました。

また、学校の保護者を巻き込み、毎月近くのスラム街に食品を届けています。その責任者が、必要な人を良く知っているの、直接には渡さず、必要に応じて分配されます。ある時は、たくさんの毛布をいただいたりするので、スラム街の人たちに大変安い値段で売り、地域の人たちを援助しています。（無料だと大事にしないので、わずかな金額でも頂いています）。



大きくなったら  
シスターになるの。





## ボリビアより

イエスのカリタス友の会の皆様

¡Feliz Navidad y Próspero Año Nuevo! (主のご降誕と新年のお喜びを申し上げます。)

「なんで日本人はあんなにもクリスマス祝うのだろうか?」と不思議に思ったことはありませんか? キリスト教徒の少ない日本に、これほど、クリスマスのイベントが多いのは、欧米の文化の影響、お祭り好き、ヴァレンタインデー、ハロウィンなどと同じく、クリスマスの完全なビジネス化という声を聞いたことがあります。その中で、「多くの人々が、クリスマスの本当の意味を知らない」という声も。私たちは、カトリック信仰を受け継ぎ、イエスのカリタス修道女会を通して、修道召命を頂き、今、国民の70%が、カトリック信者というボリビア国で、イエスの愛を述べ伝え、奉仕しています。そして、善意と優しさにあふれたカリタス友の会の皆様に支えられて、宣教活動に従事できますことを、ありがたく、幸せなことだ感謝しております。ここでも、クリスマスのビジネス商戦が、エスカレートしてきている傾向はありますが、多くの人々と共に、クリスマスの精神を生き、喜びや悲しみ、苦しみを分かち合うことの素晴らしさを味わっています。

さて、2016年、慈しみの特別聖年に 神の深い愛と恵みの中で、多くの実りを収穫しましたが、年末年始も、各修道院で、いろいろな活動が計画されています。オキナワコロニア修道院では、クリスマスに向けて、家庭の使徒職とオラトリオにますます忙しくなるでしょう。オガールファティマ乳幼児院では、待降節には、子供や職員で、クリスマスの準備、馬小屋作りや九日間のお祈り、クリスマスのミサとパーティー、幼子イエス様を待ちながら、楽しい時期を過ごします。カリタス学園修道院では、学校では、終業式や卒業式など、学期末の忙しい時期です。夏季オラトリオの開催、クリスマスの準備、貧しい家庭や病人や高齢者の家庭訪問を計画しています。コチャバンバ修道院でも、地域の人々とクリスマスの準備や家庭の使徒職、青少年司牧と召命司牧に力を入れ、年始の黙想会の準備などあわただしくなることでしょう。

ところで、主の降誕を祝う大切なメッセージの一つは、「家族」ではないでしょうか?。どんなに貧しくても、食卓にごちそうがなく、プレゼントが中古品であっても、イエス様の誕生を祝って、共にミサに参加し、幼きイエス様が、その家庭にとどまり、守ってくださるよう祈りながら、家族が集まり、お互いの幸せを願う、美しい習慣が伝えられていきます。ある家庭や団体では、自分たちの幸せを、貧しい隣人たちと分かち合い、子供たちにクリスマスの精神を伝えたいと願い、施設を訪問し、寄付をしてくださる家族や団体も増えています。サレジアンファミリーでは、2017年のテーマを「家庭」として、新しい一年を迎えます。家庭のモデルは、イエス様、マリア様、ヨゼフ様のナザレの家族と言われます。聖家族は、何の問題もなく、ただ、幸せな時を刻んだのでしょうか? 聖書が物語る聖家族が通ってきた険しくも、神に導かれた道を、私たちは知っています。今も、多くの家庭が同じ道を歩んでいることでしょう。その歩みの中で、一つ一つの家庭が、信頼、愛、希望を育みながら、家族の絆を深め、心一つにして、真の幸せな家庭を築くことができますように、そして、このクリスマスに、皆様とご家庭に神様の豊かな祝福と幼子イエス様の優しさ、聖家族の見守りがありますようにと心からの祈りを捧げます。カリタス家族の一員である私たちが、幼子イエス様と出会いによって、聖化、力づけられ、ボリビア国の人々のため、特に、貧しく、疎外された人々のため、心一つにして、勇気と希望をもって新しい年の扉を開くことができますように。



2016年12月

イエスのカリタス修道女会 リマの聖女ローザ準管区  
ボリビア国シスターズより



## アルゼンチンより

友の会の皆さま

東京では11月に雪が降ったと聞いています。寒い冬になりそうですが、皆様お変わりございませんか。私たちアルゼンチンのメンバーは、おかげさまで皆元気に過ごしています。焼けつくような

太陽のもとで、子供たちは楽しい夏休みの日々を迎えようとしています。日本語学校は12月2日に終業式を迎え、学習発表会が行われました。家族が見守る中で、子供たちは力いっぱい一年間の学習の成果を発表することができました。地域の子供たちの活動も今週にはすべて終了し、一年を締めくくります。この一年間、昨年続く英語クラス、折り紙クラス、カテキスタ、国語の基礎教育と、今年から始まった演劇クラス、絵画クラス、編み物クラスも織り交ぜて、様々なクラスを展開してきました。どのクラスも参加者の顔はほとんど同じですが、子供たちは新しいことに挑戦することのワクワク感を味わうことができました。ここに集まる子供たちに限って言えることは、アルゼンチン人はとても恥ずかしがり屋で、体を使って表現することがあまり得意ではないようです。それでも、少しずつ自分を表現することを学んできました。この一年間、神様の恵みと、皆様の温かい心に包まれて過ごすことができました。感謝でいっぱいです。世界の隅々にまで神の慈しみのまなざしがいつも豊かに注がれていることを信じ、感じて歩む私たちのことを、来年もどうぞ見守ってくださいませ。

クリスマスおめでとうございます！！！！



終業式の学習発表会（日本人学校）

アルゼンチン ルハンの聖母修道院 シスター一同



日本人老人ホーム「日亜荘」を訪問  
（日本人学校）



私立学校「YMCA」の招待を受けて  
（地域の子供たち）



ロザリオの月に  
（地域の子供たち）



## ペルーより



### 「洗礼は神の国へのパスポート」

クリスマスには幼子イエス様の誕生に魅せられて、洗礼の恵みを受ける方々が多くおられます。それはイエス様とともに、新たに生まれるという、本当に信仰あふれる新たな生活の始まりといえるでしょう。ペルーのマリアタキ保育園においても、洗礼を希望される方々のため、また、興味を持っている方々への誘いを通して、新たな喜びを持つ家庭作りに頑張っています。

「神の子として生まれる素晴らしい永遠の宝を見つける旅、洗礼という大きな恵を頂くために、神の慈愛に信頼して歩き始めよう！」と年度初めの3月の入園願書を受け付けながら、動機付けをして参りました。毎月のクラス別の家庭集会、家庭のためのミサ、父兄教育会などの機会に恵まれ、その度に、家庭における信仰教育の大切さとその基礎である洗礼の恵の重要性を説いてきました。そして、勉強会にはたくさんの家族が参加しましたが、最終準備の段階で14家族が熱心に勉強しました。クリスマス前ではありましたが、11月20日に14人の子どもたちが洗礼の恵を受けました。しかし代父母を探すのに大変苦労しました。その時に感じた事は、まずは大人への信仰養成の足りなさでした。自分の子どもには洗礼の恵で幸せになってもらいたいのに、自分自身の信仰生活には、関心がない。

来年のサレジオファミリーのストレンナが「私たちは家族、いのちと愛の学校である家庭」です。神の愛のない家庭に本当の幸せはないのです。教皇フランシスコは、「家庭」をテーマに行われたシノドス終了後、「使徒的勧告 愛の喜び」を発行し、さらに、教皇ご自身が、家庭のための連続講話を1年間33回にわたって行われ、その後、1冊の本にして発行されました。それほど、大切な家庭が今、崩壊していると教皇は心配されているのです。私たちも、教皇様の教えと模範に倣って、私たちにできることを通して、秘跡の大切さと、それを受ける喜びを、まずは私たちの近くにいる家庭に示して生きたいと思っています。

クリスマスに洗礼の秘跡を受けた方々、パスポートを手にした方々は本当に幸せです。  
おめでとうございます。



2016年12月

ペルー国リマ市マリアタキ保育園

園長 シスターアキリナ恵



家族ミサ



洗礼式

## バザーの報告

## 井萩聖母幼稚園サマーフェスタ



毎年、井萩聖母幼稚園のサマーフェスタの時期は、梅雨の最中ということもあり、お天気が心配されますが、今年は朝からの好天に恵まれ、気温も朝から高く、暑い一日となりました。友の会の会場となる教室には、たくさんのご寄付でいただいた物品や野菜、シスター方のお作りになったお菓子類やジャムなど、所せましと並べられました。サマーフェスタ開始と同時に、たくさんのお客様、保護者の皆様、園児で教室はいっぱいになり、大盛況となりました。子供コーナーの前で、何を買おうか悩む園児を見て、我が子の幼稚園時代を思い出し、懐かしさと共に、今でも続いているサマーフェスタ（当時はバザー）が、先生方や保護者の皆様のご奉仕の賜物であることを、あらためて実感いたしました。ご提供、ご協力くださった、たくさんの方々、シスター、先生方、保護者の皆様、ありがとうございました。そして暑い一日の中、大変お疲れ様でございました。無事に終わることができましたことを、感謝いたします。



## 目黒サレジオ幼稚園バザー

9月10日（土）目黒サレジオ幼稚園バザーに今年も出店させていただきました。シスター手作りのマドレーヌ、ロザリオ、おもちゃなど子ども達の喜ぶ顔を思いながら準備しました。当日は、とても暑い一日でした。それに関わらず、沢山のお客様が足を運んで下さいました。子供たちが真剣な面持ちで買い物する姿がとてもほほえましかったです。園長神父様はじめ準備をしてくださった幼稚園の皆様感謝いたします。



## 町田サレジオ幼稚園バザー



“雨の晴れ間”の9月17日(土)友の会は、開園2年目の町田サレジオ幼稚園バザーに初めて出店させていただきました。園長の小島神父様は、園児から園長先生神父様と呼ばれているそうです。園庭は、人工芝が敷き詰められ、園舎も広々としています。初めてシスターを見る園児にじっと見つめられたシスターもいらっしゃいました。ここの幼稚園でも若い保護者の活躍を目にし、気持ちよく過ごさせていただきました。来年は、きっとシスターの姿にも慣れてくれることと思います。



## カトリック調布教会バザー

雨上がりのやや曇った空の下でしたが、教会敷地内には、様々な活動グループの店が立ち並び、お年寄りから子どもたちまで多くの人々にぎわっていました。私は初めての参加でしたが、店や催しの場の配置まできちんと整理され、地域の人々にも開かれた交わりの場となっていました。友の会にも非常に多くの人々が立ち寄ってくださり、マドレーヌやパウンドケーキ、銀杏、EM石鹸など人気商品はあっという間に売り切れました。バザーの実りをお送りする宣教地の方々と、買ってくださった方々の上に神様の豊かな祝福を祈っています。



## カトリック下井草教会フェスタ



秋晴れを期待していたバザーでしたが、曇り空で風の吹く少し寒い日となりました。でも、販売開始の合図の鐘と同時に、お客様が大勢いらして下さり、お顔見知りの方々の和やかな会話の内に、時間が過ぎていきました。シスターが焼いて下さった手作りケーキはアツと言う間に完売。シスターのお母様が育てておられる無花果の木から収穫されて、ジャムにして送って下さった「無花果ジャム」も完売。又、今年は焼き芋が登場しました。シスターの呼び声に誘われてこれ又完売!!焼き芋が美味しかったと、もう一度買いに来て下さった3歳位の可愛いお客様。今年も無事にバザーが終了出来ましたことに、心より感謝を致しました。

## カリタスの園ふれあいバザー



11月6日、日差しはあるのに時おり風が吹くバザー日和？今年もふれあいバザーに参加させていただきました。子供たちの楽しげな声とともに入り口近くの宝釣りゲームはすぐに終了。シスター手作りのマドレーヌ、おにぎりや漬物も早くに完売。ご寄付いただいた衣類やかわいい小物もたくさんの方がお求めになりました。お客様のシスター方からは喜びのうちに働いておられることがひしひしと伝わるお話しに元気を頂きました。数々の模擬店も美味しいものが一杯。楽しい一日でした。お近くの方は来年のバザーにお越しください。



## カトリック関町教会バザー



11月6日、カトリック関町教会バザーに参加しました。教会に着くと友の会の場所がなく、尋ねてみるとバザーの出店申し込みが届いてないとのこと。どうしようかと思っていたら、教会の方々が、「大丈夫ですよ。今から準備します。」と会場の真ん中に場所を用意して下さいました。度あるごとに声を掛けていただき、昼食からお汁粉、コーヒーまで差し入れて下さいました。教会の方々の温かい心と愛の奉仕に、「感謝」の一言に尽きる一日でした。

### 事務局から

2016年6月～11月

バザー協力者 40名(団体含む) 寄付支援者 209名(団体含む)

使用済み、未使用切手・未使用、書き損じハガキ・外国コイン 50名(団体含む)

ご支援、ご協力いただきました。ありがとうございました。

### 友の会へようこそ

入会者

2016年7月～11月

10組の方がご入会くださいました。よろしくお願ひ致します。

毎月10日には、イエスのカリタス友の会の会員のためのお祈り(ごミサ)が、イエスのカリタス修道女会管区本部修道院聖堂において捧げられています。どうぞ心を合わせてお祈りください。

**振込用紙に記入して下さった皆様からのメッセージ中から、  
いくつかご紹介させていただきます。心温まるお言葉をありがとうございます。**

東日本大震災の被災地を訪問しました折、車中で私たちが老婦運転の時、「スモールワフエ」のCDから流れる「祈り」に、とんねるずが助けられました事に感謝で一杯でございます。

ゆ、くり心に染み通る、優しい澄んだ歌声を以て祈り。温かい気持ちになりました。ありがとうございました。

## 事務局からの声

久しぶりに大学病院を受診しました。紹介状は有るものの初診のため待ち時間が長いことは承知していたつもり。が、検査に検査、診察と説明、会計を済ませて病院を出たときは午後4時。結果説明を受けるときの「長い間お待たせしました」に単純なわたしは、疲労、緊張も遠のき不安も消えたように思いました。結果にも一安心。当たり前前のたった一言に元気をもらいストレッチを兼ねてウォーキングで帰宅。大旅行をしたような長い一日でした。受けた言葉の力をわたしも誰かに届けていくことができますように。(K.K.)

根津美術館に何年も前から行きたいと願っていた日が現実となってやってきた。孫の美術史の課題として、円山応挙の「写生」を超えてに行くので、主人と私に娘から一緒にどうかしらと誘われ、夢が叶ったその日は小春日和の穏かな日でした。紅葉に映えた庭園は見事な光景。応挙の作品の観察力、描写力に引き込まれガラスに額をぶつけるほどでした。娘と孫と過ごした幸せな一日、娘からの贈りものは、神様からの贈りもの。私ひとりのものではなく、何かの形で神様にお返しすることを待降節を迎える今、実感した一日となりました。(T.I.)

このところ毎年異常気象と言われやはり11月というのに東京にも雪が降りました。厳しい状況下の宣教地で働くシスター方はどんなクリスマスを迎えていらっしゃるでしょうか。特に南スーダンから届くニュースは深刻で命懸けで働き続けるシスター方に頭が下がります。世界中で高い志しを持ってより貧しい地域で働いていらっしゃるシスター方にどんなエールを送ったら良いでしょう。新しい年は争いの無い平和な世界になりますようにお祈り致します。(K.Y.)

南スーダンのニュースが流れる毎に現地で働いているシスターの方のお顔が浮かび、どうしていらっしゃるかと案じています。南スーダンには60の民族がいて民族同士の紛争が絶えないと聞きますが、そのような危険な状況の中で特に子供たちが甚大な影響を被っていることに悲しみと怒りを覚えます。降誕節を迎えるに当たって世界中の子供たちに主の慈しみが溢れるほどに注がれますように祈ります。(H.Y.)

不順な天候によって各地で災害に見舞われた多くの方々が静かにご生誕節をお祝いすることができますように(Y.F.)

7月にワールドユースデーに参加しました。百万人以上の青年たちが、世界中からイエスの名の下に集まり、祈る姿に心打たれました。神の慈しみが全ての人に届きますように。(M.T.)

今年の3月、知人からのお声掛けで、思いがけずフィリピンに行く機会が与えられました。これ又、思い掛けずカリタス・ドンボスコ学園を訪問して参りました。学園内を日本人のシスターに御案内頂きました時、小学生の可愛らしい生徒さん達が次から次へとシスターの手にキスをして、嬉しそうな笑顔をして飛び跳ねて走って行く姿に、とても和やかな平和な雰囲気を感じました。友の会会員の皆様方の御支援の賜物が、このフィリピン・カリタス・ドンボスコ学園の増築された教室の机、椅子、黒板などの購入に当てられるようでした。途上国への支援は、今後も必要不可欠な事であることを実感致しました。この一年も、友の会会員の皆様方の心温まる御支援を沢山頂戴致しました事に深く感謝を申し上げます。(Y.M.)

バザーのお知らせや報告、スモールクワイアによるコンサートのお知らせ、活動報告などが、イエスのカリタス修道女会のホームページでもご覧になれます。海外や日本で働くシスターたちの宣教活動、CDのお申し込み方法なども載せてありますので、ぜひご利用ください。<http://www.m-caritas.jp>

**イエスのカリタス友の会に入会しませんか？**  
ご入会くださる方は、ご氏名、ご住所、入会希望の旨などを下記の友の会事務局までお知らせください。電話、ファックス、eメール、どの方法でも構いません。お待ちしております。

寄付金受入れ口座  
加入者名 イエスのカリタス友の会  
郵便振替口座 00160-2-564970

発行 イエスのカリタス友の会  
〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5  
TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150  
e-mail : tomonokai@m-caritas.jp  
代表 山縣久美子 事務局長 片山久美子